

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-97

学校名・団体名	高松市立協和中学校
HPアドレス	http://www.edu-tens.net/tyuHP/kyouwaHP/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	『みんながもれなく「学び合う」協同学習』 の充実と発展
〈活動・研究の意義、目的〉 <p>本校の生徒は、日頃から友だちをととても大切にしている。学校でも従来から「自分づくり」「なかまづくり」を教育目標に挙げて、日々の学習や様々な学校行事に取り組んできた。本校の大きな課題である授業に生徒間の関係性の良さを取り入れるために、学びの共同体の考えを取り入れた授業への働きかけを行い、その働きかけをより強めるために公開研究会を中心にして授業改革に取り組んできた。今まで取り組んできた授業改革をより一層進めるためにも、本取り組みはとても効果を上げてきている。</p>	

1. 本年度の実践

(1) 現職教育

月1回の現職教育において、佐藤学氏(学習院大学教授)の著書を輪読したり、先進校視察に行った教員の研修成果報告を聞いたり、研究授業の検討をしたりして研修を深めた。

(2) 校内研究会

4月13日(月)スーパーバイザーである稲葉義治氏を招いて、年度当初の授業研究と指導を受けた。毎年異動する教員が10名近くいるため、協同学習について一から伝えなければならなかったが、稲葉氏により「共同的な学び」の基本的な考え方と授業の考え方、進め方を指導して頂いた。これにより、毎年教員間で伝え合っていた内容が稲葉氏の指導により適切な内容を知らされたので、昨年度から在籍していた教員にとっても再確認することができとても有意義な校内研修会であった。

(3) 公開校内研究会

6月17日(水)、9月10日(木)、11月16日(月)、2月2日(火)の4回、指導者に稲葉義治氏を招いて公開校内研究会を開催した。午前中の3時間は全ての学級で簡易な指導案(授業プラン)を作成して公開授業を行い、午後は研究授業、研究討議、指導という日程で行った。4回とも県内外から平均して40名近くの参観者が来校して授業と研究討議、指導に参加した。討議は教員も4名以下のグループで一つの生徒のグループを観察し、授業中の生徒の学びの様子を記録した上で学びの深まりや教師の指導や関わり、生徒同士をどう繋げたか等について討議した。

(4) 授業公開

上記(3)の公開研究会以外に、年間1回は授業プランを作成した上で公開授業を行い、教員研究グループや同じ教科、他学年の教員の参観を得て授業公開を行った。授業を他の教員に公開することが苦でなくなり当たり前のこととして行えるようになった。

(5) 授業評価

7月、12月に生徒による授業評価を行った。1年生から協同学習に取り組んでいる3年生の変容は、「話し合いに積極的に取り組んでいる」において、肯定的な意見の生徒の割合が1年生12月の70%から一貫して増加し、3年生の7月には88%に増加している。「友だちに説明して理解を得られた」においても同様に3年生7月に82%と高い評価を得た。逆に、「分からないときは、友だちに聞くことができる」の評価があまり伸びておらず、1年生12月の80%から3年生7月の75%へ減少傾向であることは反省材料である。

(6) 先進校視察

今年度は出張旅費の関係で4名を出張させるにとどまった。このうち、1名が「ちゅうでん教育振興助成」によるものである。

①富士市立田子浦中学校3名 10月7日(水)理科、1月13日(水)保体、2月12日(金)数学

②富士市立元吉原中学校1名 2月8日(月)社会

視察して帰校した全ての教諭が口にするのは、「視察して本当に良かった」「生徒の熱心に学習に取り組む様子をみて驚いた」という言葉である。「共同的な学び」が深まっている学校の生徒の様子を目にして、目標とするものが明らかになりこれからの刺激となった。視察の内容は現職教育で発表して共有した。

2. 成果と課題

(1) 成果

1年生入学時から協同学習に取り組んでいる3年生は、香川県学習状況調査において国語、社会、数学、理科、英語の5教科の平均正答率が1・2年生時は県平均より5%~2%低かったものが、3年生になると全国学力学習状況調査結果では県平均より1~3%高くなった。生徒の授業に取り組む姿勢が格段に良くなった。問題行動もたいへん少なくなり、落ち着いた学校生活が送られている。

(2) 課題

教員の意識の差により、授業にペア学習やグループ学習を取り入れる頻度に差があり、生徒が互いに学び合う意識の差が学年によって違いがある。研修の深まりの点で課題である。

3. 次年度へ向けて

(1)「協同学習」を取り入れて4年目となるので、教師の慣れや中だるみの懸念が出てきた。そのため校内現職教育で組織立てて取り組むことがより大切になってくる。平成28年度は今までと同じ指導者を招いての校内公開研修会を4回開催して研修に努めることを計画している。毎月実施している現職教育においても研究授業や研修を企画して指導力向上に努めなければならない。

(2)生徒、教師の「協同学習」に取り組む意識をより強く持たせるための取り組みや研修を企画し、学校を挙げて取り組むと言う意識を強く持たせなければならない。そのためにも、特に、県外先進校視察をできるだけ増やし、我々が目指す「協同学習」の様子を体験することが大切である。出張旅費縮減から難しくなっているが、何とか改善することができないか検討していく。